

2024 年度（対象 2023 年度）備前市まち・ひと・しごと創生懇談会 議事要旨

1. 日 時 2024 年 12 月 25 日（水）15:30～17:00

2. 場 所 備前市役所会議室

3. メンバー 懇談会委員（外部有識者等）9 名（うち 1 名欠席）

4. 議 題

- ①備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- ②備前市まち・ひと・しごと創生推進計画の事業評価（企業版ふるさと納税の活用）
- ③伝統工芸美術品「備前☆」の継承・活用による地域振興事業の事業評価

5. 議事概要

備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各取組みの効果検証等について、委員から意見・提案等を聴取

6. 委員からの主な意見・提案等

（1）備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- 「地域に関心のある生徒の割合の全国平均との差」で特にどういうところに魅力を感じているのか。子ども世代だけではなく、広い年代層にまで魅力を感じてもらえるものに手を打っていくのか。
- 今ある歴史、建造物を子供が直感的に評価してもらえるのであれば、活用して行って、地元だけではなく、それ以外の人たちにも目を向けてもらえるようにしていくことも大事になってくる。
- 空き家バンクの登録件数がどれだけで、どこにあって、どういう風に活用できますということを市民が全然わかっていない。
- 協力隊の活動は評価されるべきものが多いが、それが SNS で可視化されたフォロワー数だけにとどまってしまうと、もったいないと感じる。
- Youtube、SNS、外国に向けても一番重要なものではないかと思う。
- 備前市での就職者について、企業と市のタイアップで転入者に備前市で働いてもらう。ゆくゆく結婚、子育てに繋がることをまず考えていただきたい。
- 若い人たちにも住んでもらうような住宅施策があればいいと思う。結婚して住んでもらうために、家族向けであったり、そこで育てて、やがてそこにその子どもさんが生まれてという好循環に繋がっていくと思う。
- 公共交通は公設民営の議論とか、どういう形でやっていくのか、採算をとるのはなかなか難しい状況があり、JR そのものも厳しい状態になっている中でいかに維持していくのか、この議論も非常に大きな課題になってくる。

(2) 備前市まち・ひと・しごと創生推進計画の事業評価（企業版ふるさと納税の活用）

- 特徴が出ているというのが率直な印象。それが備前市の特徴であるならば、それを押せばいいと思うし、企業版ふるさと納税の活用というのはどんどん広がっていくと思う。

（ほかに意見・提案等はなし。）

(3) 伝統工芸美術品「備前☆」の継承・活用による地域振興事業の事業評価

- 一番市民が心配しているのは、その意義は何なのかということを明確にして進めていかないと。何のためにこれだけの予算を投じてやると、備前市は観光産業を基本にして行政を進めていくという。その辺をもう少し市民にわかりやすくするなかで、どういう組織を作るとかということが大事になってくると思う。
- 地域商社をつくるかつくらないかもわからない状況で、具体的な目標値を掲げているが、その目標値が見えにくい。
- なんとか備前焼を進めなきゃいけない、もう一回頑張ろうというのはわかる。
- 個別の企業数社に税を投入するというのは本来あり得ない。コンプライアンスやガバナンスからしても、行政がどこまでやるのか。
- 2年やられて地域商社では先を見通せないということは理解できるが、この場でオーソライズしたということにされると厳しい。
- 本日の意見等を参考に取組を進めていただきたい。

（以 上）